

あるかぼーと・唐戸エリアマスタープランデザイン会議

第17回 議事概要

日時	2025年2月18日(火) 14:30~17:00
場所	唐戸市場 2階会議室
参加者(委員)	HBP・KAM 共同事業体：吉田、木村隼、木村大、清原、安本、有賀 専門家：熊谷、榎本、大橋、長町 地域事業者：郷田、阿部、原田、立川 事務局：北島副市長(事務局長) エリアビジョン推進室 内田、田中、平山、村上

1. AIカメラの導入の検討について

下関市イノベ課より資料に基づき説明の上、議論

- 唐戸エリアへの来訪者がどこから来てどこへ行くのか、は把握できると有効な可能性があるが、今回のシステムではその部分がデータ取得できるわけではなさそう。
- 結局はデータを生かされるかどうかという面があるが、先に今あるデータを共有し、それで必要な検討ができるかどうかを精査する方が大事ではないか。その上で、追加で取得したいデータがあれば再度 AI カメラ導入の必要性を議論することで良いと思われる。

2. 回遊性向上に向けた実証調査の結果について

下関市港湾局より資料に基づき説明の上、議論

(1) グリーンローモビリティ実証結果について

- 路線バス等もある中で、単純につなぐだけでは事業性が厳しいという結果については、検証結果のとおりと評価できる。

(2) パーソナルモビリティ実証結果について

- 現時点で事業性自体を判断するのは時期尚早ではないか。まだ施設等がオープンしていない限られたエリアでの実証に過ぎない中で、若い層が利用し、支払い意思も確認できている点は評価できるのではないか。
- 今回の実証は、事業性の検証というよりも、歩行者と同居するなどの状態での安全性検証という位置づけでは、安全面に関する評価をきちんと記録しておいては。
- 事前協議の段階で、唐戸市場付近までエリアを伸ばすことは難しかったと聞いているが、今回の結果を生かして、今後の拡張可能性については再度調整できるように検討しておく必要があるし、その可能性があれば、運営事業者についても働きかけが可能なのではないか。

3. 交通対策円滑化対策業務について

下関市都市計画課より資料に基づき説明の上、議論

- 一定の効果が出ていることが確認できたことは好材料。一方で人手をかけての対応が必要な措置内容であることも事実なので、そうした内容については省力化の余地も検討していく必要がある。
- まちなびしものせきの改修も完了し、いくつかの民間駐車場も追加されている。まちなび自体の周知の意味でも、登録促進の意味でも、観光客が目につくサイトにバナーを貼るなどの手当を検討しても良いのではないかな。
- 臨時駐車場に関して、平日や閑散期などを活用して観光バス利用も試してみてもどうか？
- 取組と結果を突き合わせて継続的に議論を重ねていくことが重要。今年は臨時駐車場のアンケートもあるため、来訪者属性の把握が可能な部分もあり、属性によって有効な施策も異なると考えられるため、アンケート結果とも突き合わせて検証の精度を上げていくと良い。

4. モバイルユニットを活用した社会実験について

下関市イノベ課及びデザイン会議熊谷委員より資料・模型に基づき説明の上、議論

- 九州地方整備局との整理事項に関しては、今後、設置内容や検証項目を具体化し、よりコミュニケーションを深めていく必要がある。
- 夜間の視認性に関する指摘について、今回の実施エリアは一定の明るさがある状態。護岸に関しては、リゾナーレによりどの程度の明るさが出てくるかも確認しておく必要がある。
- モバイルユニットを置くだけでは、まだまだ環境的に活用されにくいと想定されるので、活用面もあわせて検討していく必要がある。また PR 上は、これが設置してあるエリアにネーミングができると良いのではないかな。
→素材や設置物を含めて現状案をベースに実施案にしていく。まずは金額等の精査

5. 令和7年度実施の「からと市場社会実験」について

デザイン会議吉田委員より説明の上、議論

- 平日の市民利用・市民の台所機能の実証をやっていききたい。5月後半を目指し、平日の早朝から午前の時間で調整中。
- 市場らしさの面で、変に来街者に合わせるのではなく、市場の時間に継続して実施していくのは良いことだと思う。
- 市場としても様々な仕掛けに期待しており、参加者を募っていききたい。

以上